

## 現代社会学部公開講座

## マスメディアと女性のキャリア形成—現場からのメッセージ—

第1講演の關陽子氏は、兵庫県西宮市出身で、音楽雑誌の編集を経てフリーランスのライターをしておられる。「英語で話しが上手になりたい」という誰もがもつささやかな願いを、すぐ行動に移し、やがてそれが大きなチャンスに結びついていった事例を豊富に紹介された。「する、しない」であれば「してみる」とラッキーなことが起こる。受け身ではなく、能動的に情報を得ていく必要性がオーディエンスにも伝わったのではないだろうか。ニューヨークでの4年間の生活を経て、現在のカナダはモントリオールを拠点に活動している。1990年よりNHK『ラジオ深夜便』の海外レポートも担当し、日本とカナダをつなぐ出版・映像などの企画・制作を行う page intercultural, inc. (パージュ) を2001年に設立した。『国際結婚—危険な話』など著作活動のほか、人気ロック・グループ GLAY の中国公演のビデオ・クリップ作成に携わり、さらには、『GLAY ACT ONE』の執筆をも任された経緯をお話いただいた。

第2講演の中山阿津子氏も神戸生まれで、大学卒業後、広告制作会社にコピーライターとして勤務。その後1994年に独立し、フリーランスの記者を経て2000年に有限会社コピーズを設立した。編集プロダクションとして『あまから手帳』、『神戸ウォーカー』、『Lマガジン』など、実際に記事になった部分を見せながら、そのエピソードをまじえつつ、編集という仕事の具体的なプロセスを説明していただいた。漠然とマスコミに行きたいと考えている女子学生は多いのであるが、具体的にどのような仕事をするかは知らない学生が多い。フロアには、学生だけでなく一般の方からもマスコミで働きたいが、どうアプローチしたらいいのかという質問がよせられ、具体的に情報を収集し、行動していく必要性がマスコミの分野別、仕事別に回答していただき、女性のキャリア形成に役立てたのではないかと考える。

特に、両氏から何かを表現する仕事に携わる現場からのメッセージとして、基本的なメールのやりとり、連絡の仕方など相手を配慮したコミュニケーションの重要性が強調された。

## 公開講座プログラム

- 開催日時 2005年7月2日(土) 13:30~16:00
- 場所 京都女子大学J校舎224教室
- 講演 「ラッキーの活かしかた」  
關陽子氏 フリーランス・ライター、レポーター、page intercultural, inc. 代表  
「あきらめないで、「マスコミ」への夢! ~小さな会社に入って、大きなシゴトをするという選択~」  
中山阿津子氏 編集者、出版ディレクター、記者、(有)コピーズ 代表
- コメンテーター 助教授 嘉本 伊都子
- 司会 助教授 嘉納 もも